

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	英語ⅣC
科目基礎情報					
科目番号	116866		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 3	
開設学科	情報工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	教科書: "FIRST TIME TRAINER FOR THE TOEIC TEST" (CENGAGE Learning), "TOEIC-IP" (国際ビジネスコミュニケーション協会) / 参考図書: 「TOEICテスト公式問題集 新形式問題対応編」 (国際ビジネスコミュニケーション協会), 石黒 昭博 (監修) 「総合英語 Forest 7th Edition」 (桐原書店)				
担当教員	佐藤 奈々恵				
到達目標					
1) 一般的な英文の内容を日本語で説明できる。 2) 標準的な単語や文法を理解できる。 3) 一般的な英文の読解や聞き取りができる。 4) 継続的な学習によってTOEICテスト・スコア400点取得が可能となる力を確認できる。 5) 英語の音声と記述による国内事情・海外事情の概要を深く理解できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	一般的な英文の内容を日本語で説明できる。		基本的な英文の内容を日本語で説明できる。		基本的な英文の内容を日本語で説明できない。
評価項目2	標準的な単語や文法を理解できる。		基本的な単語や文法を理解できる。		基本的な単語や文法を理解できない。
評価項目3	一般的な平易な英文の読解や聞き取りができる。		基本的な英文の読解や聞き取りができる。		基本的な英文の読解や聞き取りができない。
評価項目4	継続的な学習によってTOEICテスト・スコア400点取得が可能となる力を確認できる。		継続的な学習によってTOEICテスト・スコア400点取得を目指すことができる力を確認できる。		継続的な学習によってTOEICテスト・スコア400点取得を目指すことができない。
評価項目5	英語の音声と記述による国内事情・海外事情の概要を深く理解できる。		英語の音声と記述による国内事情・海外事情の概要を理解できる。		英語の音声と記述による国内事情・海外事情の概要を理解できない。
学科の到達目標項目との関係					
J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養 J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (e) 種々の科学, 技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力 J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (f) 論理的な記述力, 口頭発表力, 討議等のコミュニケーション能力 J A B E E 基準 1 学習・教育到達目標 (g) 自主的, 継続的に学習できる能力 学習目標Ⅰ 人間性 学習目標Ⅱ 実践性 学習目標Ⅲ 国際性 学校目標 A (教養) 地球的視点で自然・環境を考え, 歴史, 文化, 社会などについて広い視野を身につける 本科の点検項目 A-i 社会, 経済, 法学, 哲学, 歴史, 文化, 言語など社会科学および人文科学に関する基本的な事項について説明できる。 学校目標 C (コミュニケーション) 日本語で記述, 発表, 討論するプレゼンテーション能力と国際的な場でコミュニケーションをとるための語学力の基礎能力を身につける 本科の点検項目 C-iv 英文を正しく読解し, その内容を日本語で説明できる 学校目標 E (継続的学習) 技術者としての自覚を持ち, 自主的, 継続的に学習できる能力を身につける 本科の点検項目 E-ii 工学知識, 技術の修得を通して, 継続的に学習することができる					
教育方法等					
概要	英語ⅣCでは、語彙力や文法力の向上を図るとともに、聴解力や読解力を総合的に養成し、TOEICテスト・スコア400点レベルに達する英語力の定着を目指す。そのためには、TOEICテストの各パートの出題形式を理解し、問題に取り組むためのテクニックを習得する必要がある。				
授業の進め方・方法	今までの学習事項を定着させるとともに、「読む」「聞く」の技能のさらなる伸張を目指す。毎回の授業では、語彙の学習、文法事項の確認、リスニング・ポイントの解説、リーディング・ストラテジーの解説に重点を置くが、演習を主体にしてTOEICテスト・スコア400点取得の基盤となる英語力の定着を目指す。そのため、学習者は次回の授業に備えて必ず予習しなければならない。また、授業では常に辞書を机の上に置いて、発音や語法などを確認しながら授業を受ける必要がある。この科目は3学修単位Aであるため、75時間の自学自習時間が課せられている。なお、TOEIC-IP (英語学力テスト) については全員に受験を課し、客観的に自分の学力を知ることによって今後の学習の指針となるように指導する。再試験は年度末に1回実施する。				
注意点	第4学年において、TOEICテスト・スコア400点レベル (進学志望者は500点レベル) に達することを目標とする。学生は、企業がTOEICテストが重視されていることを意識し、各自が授業に真剣に取り組み、確かな学力をつけることが求められる。また、この科目は学修単位であるため、毎回2.5時間 (2.5×30週＝通年75時間) の自学自習を行わなければならない。本講義時間が週2時間しかないことから、英語力向上のためには、自学自習による自らの努力が必要不可欠である。このことを理解し、毎回の授業の予習、復習を徹底するとともに、さらなる英語力向上を目指して日常的に自学自習を行うことが求められる。なお、TOEICテスト・スコア向上には、学習意欲・進路実現意欲などの各自の動機付けが鍵となる。TOEICテスト・スコアが一種の資格 (技能) として履歴書に記載できることを意識し、進路実現に向けて勉強することが望ましい。 なお、授業計画で示した授業項目は学習進度に応じて変更することがある。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション (TOEICの出題形式・傾向について)	TOEICの出題形式・傾向を理解できる。	
		2週	UNIT 1. Shopping	動詞の用法を理解できる。	
		3週	UNIT 1. Shopping	動詞の用法を理解できる。	
		4週	UNIT 2. Daily Life	名詞の用法を理解できる。	
		5週	UNIT 2. Daily Life	名詞の用法を理解できる。	
		6週	UNIT 3. Transportation	代名詞の用法を理解できる。	
		7週	UNIT 3. Transportation	代名詞の用法を理解できる。	
		8週	期間試験	これまでの学習内容を理解し、それらを運用できる。	
	2ndQ	9週	UNIT 4. Jobs	形容詞・副詞を理解できる。	

後期		10週	UNIT 4. Jobs	形容詞・副詞を理解できる。
		11週	UNIT 5. Meals	時制を理解できる。
		12週	UNIT 5. Meals	時制を理解できる。
		13週	UNIT 6. Communication	受動態・分詞を理解できる。
		14週	UNIT 6. Communication	受動態・分詞を理解できる。
		15週	問題演習 夏期課題の説明	これまでの学習内容を理解し、それらを運用できる。
	3rdQ	16週	前期定期試験	これまでの学習内容を理解し、それらを活用・運用できる。
		1週	UNIT 7. Fun	動名詞・不定詞の用法を理解できる。
		2週	UNIT 7. Fun	動名詞・不定詞の用法を理解できる。
		3週	UNIT 8. Office Work	助動詞の用法を理解できる。
		4週	UNIT 8. Office Work	助動詞の用法を理解できる。
		5週	UNIT 9. Meeting	比較の用法を理解できる。
		6週	UNIT 9. Meeting	比較の用法を理解できる。
		7週	UNIT 10. Travel	前置詞の用法を理解できる。
		8週	UNIT 10. Travel	前置詞の用法を理解できる。
	4thQ	9週	Post-test	英語学カテスト（TOEIC-IP）の傾向を把握できる。また、これまでの学習内容を理解し、それらを活用・運用できる。
		10週	英語学カテスト（TOEIC-IP）	これまでの学習内容を踏まえ、TOEICテストに対応できる。
		11週	UNIT 11. Finance	接続詞の用法を理解できる。
		12週	UNIT 11. Finance	接続詞の用法を理解できる。
		13週	UNIT 12. Business	関係詞の用法を理解できる。
		14週	UNIT 12. Business	関係詞の用法を理解できる。
		15週	問題演習	これまでの学習内容を理解し、それらを運用できる。
		16週	後期定期試験	これまでの学習内容を理解し、それらを活用・運用できる。

評価割合

	期間・定期試験	英語学カテスト (TOEIC-IP)	課題・小テスト等（授業への取組姿勢を含む）		合計
総合評価割合	55	15	30	0	100
基礎的能力	55	15	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0